

緒方洪庵再評価を

適塾記念会 梅溪理事が講演

おやかま歴
お歴史塾

人物を通し郷土の豊かな歴史に触れる「おやかま歴史塾」時代を拓いた先覚者に学ぶ」の後期第六回講演会が二十一日、岡山市柳町、山陽新聞社さん太ホールで開かれ、大阪名誉教授で適塾記念会理事の梅溪昇氏が、備中足守藩(現・岡山市足守)出身で幕末の大坂(現・大阪)に蘭学塾・適塾を開き、多くの人材を育てた蘭方医緒方洪庵(一八一〇～六三年)の業績について再評価を訴



緒方洪庵の業績を再評価した「おやかま歴史塾」の後期第6回講演会

えた。梅溪氏は、十六歳で医学を志し大坂に出た洪庵も達する塾生を育てた生

が、江戸、長崎でも研究を積み、適塾で千人に沢諭吉や大村益次郎ら各方面で日本の近代化に活躍する人物を出すことに

涯をたどった。その上で「医学にとどまらず広く自然科学に通じた特異な蘭学者。時勢を見通す力を持っていたことが、福

予防に尽くした医師としての業績にも光を当て、「単なる医学者でなく、社会的事業に貢献した臨床医」と評価。背景に「医者は自分のためではなく人のためにある」という今日にも通じる思想があることを指摘した。

約三百人が聴講。倉敷市上東、犬飼浩二さん(左)は「洪庵が、塾を巣立った門人にも励ましの手紙を送り、交流を続けたのが興味深い。人となりにも触れられた気がする」と喜んでいた。

歴史塾は昨年八月から毎月開催。後期は今回で(詳細は8月12日付朝刊に掲載予定)

る。塾生募集は既に締め切った。(中浜隆宏)